

こども教育会議 会議録 (速記メモ)

<p>日時 令和2年5月19日(火) 13:45~14:30</p>	<p>場所 武雄市役所 全員協議会室</p>	<p>出席 小松市長、松尾教育長 教育委員(一ノ瀬、大庭、馬場、山口、岡本、田中、大渡、堀田) 牟田こども教育部長、永尾こども教育部理事 教育総務課(諸岡課長)、こども未来課(古田課長) 学校教育課(古川課長、百合参事) 新たな学校づくり推進室(井手室長) 松尾福祉部長、福祉課(黒尾課長)、健康課(田栗課長) 諸岡総務部理事、防災・減災課(西山課長) 庭木企画部長、企画政策課(松尾課長、中村係長、筒井)</p>
<p>1. 協議件名</p>		<p>第23回こども教育会議 (新型コロナウイルスを通して見えた子育て、 教育の課題について)</p>

議事録

<p>内容</p>	<p>1 開会 (進行:庭木企画部長)</p> <p>2 議事 (議事進行:小松市長)</p> <p>(1) 新型コロナウイルスを通して見えた子育て、教育の課題について</p> <p>意見交換</p> <p><出席者の意見></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育のすばらしさを感じる機会であった。学校教育では教育の基礎や集団生活を学んでいる。危機的状況に陥った場合、全員が意思統一できる基礎を学んでいる。 ・防災教育、避難教育を体系化した授業が必要である。自己肯定感とセットで学ぶ機会を提供することが大切である。 ・北方中学校のオンライン授業を教育委員で視察し、大人が学ぶ姿、挑戦する姿を見るのが子ども達の最大の学びであることを感じた。 ・オンラインの授業の可能性は感じるものの、各家庭に教育が委ねられた場合、教育の格差が懸念される。 ・教育委員会の課題として、教育、経済、医療、衛生のバランスを考えた中長期の計画が必要であり、教育委員会としても方針、基準を示す必要がある。リスクを最小化すべき手段を話し合うことが必要である。 ・動画授業の積極的な導入が必要である。 ・提案として、通信環境の整備の推進が必要であるため、市として企業からの寄付や基金を設立してはどうか。 ・企業と連携し、民間学習塾へ補助を出し、子ども達へ学習の場を提供してはどうか。 ・休校中、親、祖父母とのふれあう時間を持つことができた家庭もあった。 ・学校毎で休校中の取り組みに温度差があったことを感じた。保護者の不満もあり、校長会等で取り組みを共有できたら良いと思う。 ・全国に先駆けてタブレットを導入していた武雄市であるため、もっと早く活用ができればよかった。 ・全国的に子ども達の各スポーツ大会が中止となり、進路にスポーツの評価が影響することもあるため、もし開催が可能であればスポーツや文化活動の活躍の場として体育施設の提供を検討してほしい。また、大会がなくともこれまでの取り組みを評価してほしい。 ・先が見えない休校で保護者はストレスを感じていた。今後の対応を考える必要がある。
-----------	---

- ・オンライン授業を夏休みに活用する。
- ・小学校低学年でのオンライン活用は難しいのではないだろうか。
- ・子どもの家庭での様子、保護者とのやり取りを声だけでなく顔を見ながらオンラインでやり取りできる。
- ・学習面と生活面（生活のリズム、ゲーム等）が心配される。家庭での生活習慣の見直しも必要である。
- ・子ども達への感染がなく、守られていることを感じた。休校になった原因は大人の責任であり、大人の行動で子どもの貴重な時間や環境を大きく変えることとなった。
- ・コロナウイルスの影響で悪い事例が示されているが、得られた物もある。地域で、個々で活動いただいたことがあるため、この経験を検証して今後の教育に活かしてほしい。
- ・保育園、学校、児童クラブにおいて保護者の協力を感じた。多くの家庭で家庭保育ができていたのは、仕事先の理解や祖父母の協力があつたからである。命の大切さを実感した。
- ・子ども達は我慢している。その我慢を自粛で一括りにされてしまっている。長期化になると心配される。
- ・自分の家庭では、料理や農作業をして家族で過ごす時間もできた。一方で、子どもの気持ちの中では、学校の存在が薄れていた。学校からの情報やつながりがあれば、学校再開がスムーズにできると思う。
- ・例として、先生とのメールのやり取りや PC が利用できる家庭は、日記の共有等の学校との繋がりがあればよい。
- ・学習の遅れを取り戻すために、詰め込み学習にならないよう対応してほしい。
- ・夏休み返上による登校となる可能性がある。本来なかった時期の学校行事となるため、教室には冷房設備があるが、登下校の暑さ対策等体への負担がないよう検討する必要がある。
- ・こども会の会合も自粛している状況である。そのため、メールや他のツールを使って親同士のやり取りが効率的にできた点はよいと感じた。
- ・生活の乱れが気になったが、子ども達はストレスフリーでゆったり過ごせた部分もある。
- ・自殺者が 2 割減った報道がある。日々追われた生活から社会全体が休む機会となった。
- ・不登校や平時でのオンライン授業の活用の可能性を感じる。その際、オンライン授業での理解状況の把握が大切である。
- ・武雄市全校でオンライン授業が進んでほしい。
- ・子どもの ICT 活用だけでなく、大人の ICT 活用も必要である。地域の会議等で活用することにより、時間の効率、参加できない人とのつながり等地域課題（役員の担い手不足）の解決にもつながる。
- ・休校中の学校の指針が示されていたことは非常によかったと思う。
- ・オンライン事業の取り組みは、学校と家庭をつないで顔が見えるだけでなく様々な活用が考えられる。
- ・休校中も先生方が学校の取り組みを進めていただいていたおかげで、学校再開後、子ども達が笑顔で登校する様子が見られ安心した。
- ・花まる学習について、これまでの地域とのつながりがあるためスムーズに再開できると思う。
- ・オンライン授業の可能性に驚いた。やれるところからの取り組みは大変良いことである。
- ・大人でもやってみようと思える便利さがあると思う。

- ・学校ではピンチをチャンスに変えて学校の信頼を得る取り組みを大切にしている。
- ・普段の教育活動の見直しを考える機会となった。
- ・オンライン学習の活用の良さもあるが対面での指導の大切さも先生方にわかってほしい。
- ・学習面で保護者の不安を取り戻すことは大切であるが、詰め込みすぎにならない取り組みを行う。

<市長の発言>

- ・この期間色々なことを考えるきっかけとなった。
- ・今日のこども教育会議をリモート会議で行うことを検討した。まずは大人もやってみることが大切である。オンラインの良さ、対面の良さを実感する必要がある。
- ・北方中学校の先生の挑戦する姿が子ども達の人生の挑戦につながる。非常時だからこそ、新しいことにチャレンジできる。やってみる、挑戦することが今求められている。
- ・今後、経済活動をどう動かしていくかが大切であるが、学校が再開したからこそ、視点を子ども達に向け、子ども達の学びを止めない、詰め込みにならないよう、そしてチャレンジしていく教育に取り組んでいきたい。
- ・オンラインと対面のハイブリットの良さを教育に活用したい。
- ・そもそもあるべき学びについて教育委員会で議論をしてほしい。

3 閉会（進行：庭木企画部長）